

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公告

⑫ 実用新案公報(Y2)

昭63-47229

⑬ Int. Cl.

E 04 F 13/14  
13/08

識別記号

1 0 2

庁内整理番号

D-7130-2E  
L-7130-2E  
W-7130-2E

⑭ 公告 昭和63年(1988)12月6日

(全4頁)

⑮ 考案の名称 建築用板

⑯ 実 願 昭57-115793

⑰ 公 開 昭59-19839

⑱ 出 願 昭57(1982)7月29日

⑲ 昭59(1984)2月7日

⑳ 考 案 者 廣 岐 郁 夫 大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号 久保田鉄工株式会社内

㉑ 出 願 人 久保田鉄工株式会社 大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

㉒ 代 理 人 弁理士 清水 実

審 査 官 伊 藤 哲 夫

㉓ 参考文 献 特開 昭57-61152(JP, A) 実開 昭55-10333(JP, U)

1

## ㉔ 実用新案登録請求の範囲

巾方向一端より他端側へ肉厚がテーパ状に拡大する断面形状とされた無機質製板体の巾方向薄肉側端面には突条が、又厚肉側端面には前記突条と本実状の雌雄関係をなす凹溝が形成され、一方、長さ方向一端の表面側部に断面L字状の切り欠きが設けられ、長さ方向の他端部には前記L字状の切り欠きに合伏状に嵌合する底状延出部が形成され、前記凹溝及び前記切り欠き部には、弾性を有する防水材が設けられて成ることを特徴とする建築用板。

## 考案の詳細な説明

この考案は建築用板に関し、詳しくは、主として外装壁板として使用される無機質製建築用板に関する。

従来、無機質材料の押出成形によって、内部に長さ方向に連続する中空孔を有した建築用板が種々提案され、かつ実施されている。

この種建築用板は、巾方向両端面に本実状の雌雄嵌合片を板体内部の中空孔と同時に成形することが可能であるから、接合して用いる場合の嵌合が確実に行える、又内部が中空であるから軽量であり断熱性にも富むといった利点を有するが、長さ方向端部は、一般に切り離し状とされているので、長さ方向への接続には単なる突き合わせ接合となり、防水の必要がある場合は別にジョイナー材を用いる必要があつて施工が面倒となり、又、

2

ジョイナー材を使用しても尚充分な防水性を得られないといった問題があつた。

この考案は上記問題点に鑑み、巾方向端の接合のみならず長さ方向端における接合も、特にジョイナー材を使用することなく、防水性も良好に達成し得る建築用板を提供することを目的としてなされたものであつて、巾方向一端より他端側へ肉厚がテーパ状に拡大する断面形状とされた無機質製板体の巾方向薄肉側端面には突条が、又厚肉側端面には前記突条と本実状の雌雄関係をなす凹溝が形成され、一方、長さ方向一端の表面側部に断面L字状の切り欠きが設けられ、長さ方向の他端部には前記L字状の切り欠きに合伏状に嵌合する底状延出部が形成され、前記凹溝及び前記切り欠き部には、弾性を有する防水材が設けられて成ることを特徴とするものである。

以下、この考案を実施例により説明する。

第1図はこの考案の実施例の斜視図、第2図は使用状態を示す要部斜視図、第3図は第2図のⅢ-Ⅲ線断面図である。

この考案の建築用板Aは、主として無機質材料の押出成形によって成形され、長さ方向(矢印L)に連続する中空孔1…1を有し、かつ、巾方向(矢印B)一端2Aより他端側2Bへ肉厚dがテーパ状に拡大する断面形状とされた無機質製板体3の巾方向薄肉側端2A端面には突条4が、又、厚肉側端2B端面には、第2図に示すよう

3

4

に、突条4と本実状の雌雄関係をなす凹溝5が形成され、一方、長さ方向一端6Aの表面3A側部に前記中空孔1…1に至らない深さTの断面L字状の切り欠き7が設けられ、長さ方向他端部6Bには前記L字状切り欠き7と合挾状に嵌合する底状延出部8が形成され、前記凹溝5及び前記切り欠き部7には弾性を有する防水材9が設けられて構成されている。

上記実施例において、建築用板Aの耐水性を付与するため、第4図に示すように、裏面3Bに防水紙10を一体に貼り付けた構成としても良い。

そして、この考案の建築用板Aを用い、例えば外装壁面を構成する場合、第2図あるいは第3図に示すように、上下方向には突条4と凹溝5とを本実状に嵌合させ、長さ方向には切り欠き7と底状延出部8とを合挾状に嵌合させつつ接合していくのである。

尚、第3図において、11は胴縁又は間柱、12は釘又はビスなどの固定具である。

このとき、釘又はビスなどの固定具12は、本実状に嵌合する凹溝5によってかくされ、外観が良くなり、又、本実状嵌合により上下方向に流下する雨水などの浸入が確実に防止され、又、長さ方向端の接合部は建築用板Aが下方に至るほどテーパ状に厚くされていること、及び合挾状の接合部とされていることより、合挾状に接合した部分

に浸入した雨水Rも下方へ流下して、下位の壁板表面に流出してしまい、壁板裏面3B方向へと浸入していくことがないのである。

又、接合時には、弾性を有する防水材9が圧縮されるから、これによっても接合部が完全にシールされ、ジョイナー材を使用しなくても完全な防水性が得られる。

この考案は以上のように断面形状を下方に至るほど肉厚とし、かつ、巾方向端を本実状嵌合、長さ方向端を合挾嵌合により接合し得る構成としたから、これら形状的組み合わせにより合理的に防水が行われる上に、各接合部には弾性防水材料を介挿する構成としたから、きわめて良好な防水性を発揮し得、しかもジョイナー材を使用することなく接合していくことができるので、施工も容易であるなど種々の実用的効果を有する。

#### 図面の簡単な説明

第1図はこの考案の実施例の斜視図、第2図は実施例の使用状態を示す斜視図、第3図は第2図のⅢ-Ⅲ線断面図、第4図は他の実施例の断面図である。

A……建築用板、1……中空孔、2A……巾方向一端、2B……巾方向他端、3……無機質製板体、4……突条、5……凹溝、6A……長さ方向一端、6B……長さ方向他端、7……切り欠き、8……底状延出部、9……防水材。





